

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 20 日現在

機関番号：22604

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22520438

研究課題名（和文）北京新出資料から見る清民口語の諸相

研究課題名（英文）A research on colloquial Mandarin from the Qing Period and onwards from the new source materials found in Beijing

研究代表者

落合 守和 (OCHIAI MORIKAZU)

首都大学東京・人文科学研究科・教授

研究者番号：40117700

研究成果の概要（和文）：

3年間計20回の北京調査により、次の四つの調査課題、二つの研究課題のそれぞれについて調査と研究を進め、北京語・共通語とその口頭表現に関する新しい知見を得た。

①北京白話報刊（新聞と定期刊行物）の調査、②影戲影詞（影絵芝居とその脚本）の調査、③口供供詞（裁判の供述筆記とその引用）の調査、④電視劇本（テレビドラマの脚本）の調査、⑤上記①～④により収集された清代から民国期にかけての言語資料を集積する「清民語庫」の構築、⑥⑤に基づく年代の確かな資料による清代民国時期の漢語の演変研究

研究成果の概要（英文）：

There are so many kinds of the colloquial materials in Modern Mandarin which have not been investigated in China. The present study investigated four different forms of source materials: 1) the newspapers and the periodicals written in the colloquial Mandarin and published in Beijing from the end of the Qing Period to the early Republican Period, 2) the playbooks for the Shadow Play circulated in Beijing(北京) and Hebei Province in the end of Qing Period, 3) the affiant statements recorded in the court of justice in the Qing Period, 4) the oral expressions in the drama telecasted and played in Beijing. The result of the research can be concluded as follows: some grammatical features found in 1), 2), and 3) are similar to those in the last one, and these grammatical features are also found in the expressions that were used in novels and other literature of Qing Period.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2011年度	900,000	270,000	1,170,000
2012年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	3,000,000	900,000	3,900,000

研究分野：言語学

科研費の分科・細目：中国語学（中国語史）

キーワード：(1) 近代漢語 (2) 旗人話 (3) 白話報刊 (4) 影戲影詞
(5) 刑部档案 (6) 順天府档案 (7) 供詞 (8) 電視劇本

1. 研究開始当初の背景

・研究代表者(落合)は、1999年から2000年にかけて1年間の北京調査の後、さらに

2001年以降毎年数回の北京調査を継続し、そこで抄写入手した言語資料（これに「清民語料」の名を与える。「清民語料」とは「清

代から民国時期にかけての言語資料」の意。)の紹介とその初歩調査による学会報告を重ねてきた。そのなかには、内外学界で紹介されたことのない新発見の資料も若干ある。

・たとえば、2005年12月、北京のとある旧貨市場の一角から、小説一編が出現した。民国3年(1914)刊『社会小説埋香記』全六十二回の短編小説で、これまで知られていなかった小説である。この時代に盛んに出版されていた北京白話報の一つ『群強報』の付録(「附張」)で、全六十三葉(完)。清代末期の北京語(旗人話)を代表するとされる光緒34年(1908)刊『社会小説小額』と同様の旗人話の語法特徴を持つ講談調白話体の旗人小説である。『社会小説小額』につながる作品と思われる(落合守和、『社会小説埋香記』の言語について、日本中国語学会第57回大会予稿集、2006年、pp.266-270、参照)。

・中国では、影絵芝居の脚本が20世紀末まで抄本(手書き写本)により伝えられていることに示されるように手書きテキストの伝達力が強かったこと、一方では、十九世紀末以降急速に活版印刷が普及し、白話・文話(文言)の新聞「白話報」「文言報」が盛んに出版されたこと、などから当時の文字や画像による情報伝達の実態を正確に把握するためには、多様な文字資料(抄本と刊本)の全体を俯瞰する必要がある。

・改革開放から和諧社会へ、和諧社会から小康社会へ、この三十年来の社会変容と都市改造の結果、国营や公営の企業(出版社・学校・図書館を含む)からも個人の住宅からも、大小を問わずさまざまな書物が放出処分されている。かつて1920年代に北京の某所から出現した俗曲手書きテキストの大きなひと山(後に「(蒙古)車王府曲本」と呼ばれる)のように、未知の価値あるコレクションが現れる可能性もないとは言えない。

2. 研究の目的

・十九世紀の末、北京の零落した満洲旗人の家庭に生まれた舒慶春(1898-1966、後の作家老舍)は、自伝風の中篇小説『私の一生』(1937)に記すところによれば、幼年時代恵まれた読書環境ではなかったが、北京の日刊白話報(彼は「小報」と呼ぶ)に親しみ、そこに連載された評書聊斎の幾編かは暗誦するほど読み込んでいたという。

・この研究では、こういったこれまであまり知られてはいない北京庶民の言語生活に目を向けたい。北京及びひろく北方地域の言語生活を反映する、十七~二十世紀、清代から民国期にかけて(1644-1949)の口語系文献の収集に努め、北京=北平を中心とする武士(「旗人」と農工商の一般庶民(「民人」)の口語の諸相を明らかにしたい。

3. 研究の方法

・六つの研究班が、次の四つの調査課題、二つの研究課題を分担し、3年間の調査研究を進める。

(1) 北京白話報刊の調査

清末から民国初めにかけて盛んに刊行された北京の白話報刊(新聞と定期刊行物)を収集し、その口語系の記事を抽出抄写する。

(2) 影戯影詞の調査

河北東部で特に流行したと言われる影絵芝居「影戯(皮影戯)」の抄写脚本(「影詞」「影卷」などと呼ばれる)や各種俗曲の抄本または石印本の原件・複製を収集し、抄写する。

(3) 口供供詞の調査

中国の裁判では、自白を重んじる伝統があったと言われるが、本人の供述がどのように記録されたか、供述(「口供」)やそれを記録した供述書(「供詞」)の実例に基づく研究は少なく、裁判の実際も不明の部分が少なくない。供述(「口供」)や供述書(「供詞」)に見える言語について触れる研究は、ほとんど知られていない。その語法特徴及び通時変化は、ほぼ未着手の分野と言ってよい。

北京の中国第一歴史档案馆に所蔵される档案より、事案関係者の口供供詞(裁判の供述筆記とその引用)を抽出抄写する。

(4) 電視劇本の調査

上記(1)~(3)の清代・民国期口語と比較する口語作品の候補として、北京で放送される電視劇(連続テレビドラマ)に取材し、特徴ある作品を収集する。日本の新劇にあたる話劇の作品若干をこれに含める。

(5) 清民語庫の構築

上記(1)~(4)により発掘収集された清代から民国期にかけての言語資料を「清民語庫」に集積する。

(6) 清民語料の解析その他

上記(5)より口頭対話を抽出する。太田辰夫1958『中国語歴史文法』の枠組みを用い、漢語語彙語法の演変を記述する。

年代の確かな資料により、近代漢語研究の前進を図る。

4. 研究成果

・この研究を含め、1999年から2013年に至る調査により言語資料(「清民語料」)の抄写収集とデータ蓄積を継続し、そのいくつかについて初歩的な口頭報告を積み重ねることができた。

・その結果、清代口語と民国時期の口語との間には、不連続性よりはむしろ連続性に注目すべきであるとの印象を持つにいた

り、十七世紀から二十世紀を見通した「清民口語史」を記述することができないか、と構想するに至った。できるとすれば、この研究は、この課題の里程標の一つとなるであろう。

・北京調査の時期

2010年4月から2013年3月(4月)までの全期間(3年間36月)を通じて、合わせて20回、217日間、北京調査に従事した。それぞれの調査の時期(始期・終期)は次のとおり。

【2010年度】 (計5回、61日間)

2010年4月26日～5月10日(15日間)

2010年8月2日～8月13日(12日)

2010年9月20日～10月4日(15日間)

2010年12月17日～12月27日(11日間)

2011年2月18日～2月25日(8日間)

【2011年度】 (計8回、79日間)

2011年4月29日～5月9日(11日間)

2011年6月17日～6月20日(4日間)

2011年9月2日～9月12日(11日間)

2011年9月23日～10月3日(11日間)

2011年12月16日～12月26日(11日間)

2012年3月2日～3月9日(8日間)

2012年3月12日～3月19日(8日間)

2012年3月23日～4月6日(15日間)

【2012年度】 (計7回、77日間)

2012年5月18日～5月21日(4日間)

2012年9月3日～9月10日(8日間)

2012年9月14日～9月21日(8日間)

2012年9月24日～10月1日(8日間)

2012年12月14日～12月28日(15日間)

2013年3月1日～3月11日(12日間)

2013年3月15日～4月5日(22日間)

【2010～2012年度】(合計19回、209日間)

・北京調査の場所

2010年4月から2013年3月(4月)までの全期間(3年間36月)を通じて、調査した北京の機関・書肆(所在地)は次のとおりである。所在地はいずれも北京市内。

中国第一歴史档案館(故宮西華門内)

北京市档案館(蒲黄榆、南三環内)

首都図書館(東三環内)

中文期刊閱覽室(三層)

北京地方文献閱覽室(五層)

歴史文献閱覽室(地下一層)

中国国家図書館(西三環外)

中国国家図書館古籍館(北海)

北京大学図書館(北四環外)

中国書店報刊資料部(西单横二条)

中国書店瑠璃廠書店(瑠璃廠東街)

中国書店海王邨拍賣有限責任公司(瑠璃廠東街)

中国書店來薰閣書店(瑠璃廠西街)

中国書店古籍書店(瑠璃廠西街)

中国書店灯市口書店(灯市東口)

中国書店隆福寺書店(東四隆福寺街)

潘家園旧貨市場(東三環内)

古旧書刊区(1)(南院)

古旧書刊区(2)(西院)

西地攤(西院)

丙区二層

大庁二層

報国寺収蔵市場(廣安門内/牛街路口、西三環内)

清竹風音像店/千厥坊音像店(隆福寺街)

經典音像美術館店(美術館北路)

(1) 北京白話報刊(新聞と定期刊行物)の調査

・『啓蒙画報』(1902-04)・『京話日報』(1904-)・『愛国白話報』(1908-)、『白話北京日報』(1908-)、『白話捷報』(1913-)など清末民初北京の白話報刊には、地元ニュース(本京新聞)、(演説)、(評書)、(小説)、(翻訳小説)など口語性の強い記事があり、その若干を拾い、抄写収集した。

・北京市档案館(北京市蒲黄榆、南三環内)に所蔵される白話報1910『法政官話報』、北京市政公所(市役所)の広報誌『市政通告』(1915-)実業部の広報誌『実業浅識』(1914-)など、清末民初の庶民向け定期刊行物若干を閲読抄写した。

・北京のその他の各図書館、書肆及び旧貨市場の攤子において、さまざまな口語系文献を収集した。

(2) 影戲影詞(影絵芝居とその脚本)の調査

・影絵芝居「影戲(皮影戲)」の脚本「影詞」のうち、早稲田大学中央図書館所蔵(風陵文庫「某種戲詞」、澤田瑞穂旧蔵)の抄本『焦葉扇』全九本を抄写し、その校正作業を継続中である。同抄本は、1940年代に北京で収集されたものとされる。流行の中心地は、北京の東方灤州(唐山一帯)とされ、清末河北の口語を反映している可能性がある。

・1999年及び2000年代初めに見かけた影戲の上演抄本は、2013年3月現在なお旧貨市場の攤子に現れることがある。

(3) 口供供詞(裁判の供述筆記とその引用)の調査

・故宮西華門内に位置する中国第一歴史档案館に所蔵される刑部档案(原件)及

び順天府档案(写真複製)を継続調査した。ただし、2008年5月から所蔵档案原件閲覧と縮微複製が禁じられたため、档案館スタッフの助言により当面閲覧抄写の対象を順天府档案に変更しつつ所蔵档案の調査を継続中。2013年4月現在閲覧複製の禁止は解除されず、この公文書館の利用は、なおも所蔵档案の写真版/電子入力データ/架蔵の図書資料の三種に限られている。しかし、漢文档案・満文档案とも、閲覧抄写を業とする研究員・館員との交流から学ぶことは多い。

・北京周辺地区(「順天府」)で発生した法律訴訟(「法律詞訟」)の事案のうち、土地・房屋・賭博・偷窃・婚姻・拐騙(人身売買)などの関連文書若干の案巻を閲読したところ、それら文書のうちに、被疑者とその関係者の供述「口供」を記した供述書「供詞」の原件(時に「十」の文字に似た署名が添えられる)またはその引用(「據○○供」、女性の場合は「據□○氏供」の形式)を含む文書が多数検出された。

・多彩な俗字を同定し、抄写検討の結果、発話の引用を示す、《説(～と言った)》、動詞の接尾辞《了》《的》《過》、代名詞《我》《他》《他們》(稀に《你》)、前置詞《合(～と)》、句末助詞《呢》、準句末助詞《就是了》や感嘆詞《哎哟(アィ)》の使用など、十八世紀の小説『石頭記(紅樓夢)』、十九世紀の小説『兒女英雄傳』、二十世紀の小説『(社会小説)小額』、と共通する口語性の強い語法特徴が見られることが判明した。

・裁判档案に現れる供述・引用供述は、清代の前期(十七・十八世紀)、後期(十九世紀)と末期(十九世紀末～)をつなぐ通時資料として有用と思われる。ただし、順天府档案のうち、すでに閲覧した範囲では、清代前期のうち乾隆前期(十八世紀前半)以前に属するものは多くはない。(清代北京語の時代区分は、太田辰夫1958『中国後歴史文法』に従う。)

(4) 電視劇本(テレビドラマの脚本)の調査

・清代口語と比較する現代口語作品の候補として、2010～2013年に北京電視台)、や中央電視台などで放送された連続テレビドラマ若干と、北京の首都劇場(灯市西口)、北京人藝実験劇場(同劇場内)、国家大戲院(西長安街)その他で上演された現代劇(「話劇」)若干とに取材し、北京語とその口頭表現に関する新しい知見を得た。主な作品は次のとおり。

【連続テレビドラマ(北京電視台 BTV-4/1/2/9、台 CCTV-8/1 等)

2013『僕たちのハッピーライフ』(我們的快樂人生))、
2013『究極の戦い(絶戦)』、
2013『母さんのお嫁入り(娘要嫁人)』、
2012『おやじの願い(老爸的心愿)』、
2012『李春天的春天』、
2012『抬頭見喜』、
2012『夜店之天生』
2012『兄貴の幸せ(老大的幸福)』、
2011『風車』、
2011『金婚風雨情』、
2011『女人心事』、
2010『ケータイ(携帯)』、
2010『オヨメサン万歳(媳婦的美好時代)』、
2010『兄貴の幸せ(老大的幸福)』、
2010『こちらの親父あちらの御袋(满堂爹娘)』、
2010『茶館』、
2010『復婚』、
2010『牽挂』(中央電視台)、
2010『全家福』(北京人民藝術院)、
2009『メイリイのこと(美麗的事)』、
2009『マイホームはいずこ(蝸居)』、
2009『ともにあるもの(相伴)』、
2009『オフクロたちの六十年(咱爸咱妈的六十年)』、
2009『幸せ通り9番地(幸福里九号)』、
2009『北風那個吹』、

【現代劇(「話劇」)(首都劇場/北京人民藝術院実験劇場/国家大戲院ほか)

2013『活性炭』(編劇:喻榮軍)、
2013『有一種毒藥』
2012『甲子園』(北京人民藝術院)、
2012『あひるの歌/たばこの害について』(編劇:契訶夫)、(北京人民藝術院)、
2012『壞女孩子的惡劇』滅窩頭會館』(北京人民藝術院)、2012『風和日麗』(北京人民藝術院)、
2012『甲子園』(北京人民藝術院)、
2012『鹵煮』(北京人民藝術院)、
2012『未完待續』(北京人民藝術院)、
2012『セールスモンの死』(北京人民藝術院)、
2012『我們的荊軻』(北京人民藝術院)、
2012『天下第一樓』(再演)
2012『風和日麗』(北京人民藝術院)、
2011『關係』(北京人民藝術院、2009再演)
2010『窩頭會館』(北京人民藝術院)、
2010『駱駝祥子』(北京人民藝術院)、(再演)
2010『關係』(北京人民藝術院)、
2010『嘘をおっしゃい』(北京戲曲学院)、

(5) 清民語庫の構築

・上記(1)~(4)により収集された清代から民国期にかけての言語資料を集積する「清民語庫」は、その準備作業の段階にとどまった。

(6) 清民語料の解析その他

・(5)に基づく年代の確かな資料による清代民国時期漢語の演変研究については、個別語彙語法の用例を蓄積することとどまった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計7件)

①落合守和、中国語史における漢児言語について、現代中国における言語政策と言語継承-少数言語について考える- (科研費基盤研究(B)「中国黒龍江省におけるモンゴル族コミュニティ言語保持政策や継承復興への取り組み」2012年度第2回日中ワークショップ報告書査読無、2013年

②落合守和、『啓蒙画報』の言語について、日本中国語学会第64回大会予稿集、査読無、2012

③落合守和、『應用會話篇』の言語について、中国近世語学会ニュースレター2012年度第1号、査読無、2012年

④落合守和、『春阿氏』の言語について、日本中国語学会第63回大会予稿集、査読無、2011年

⑤落合守和、清末民初白話報刊概観、清代民国時期漢語国際学術研討会前論文集、査読無、pp. 115-131、2010

⑥落合守和、清代北京刑事档案所見の供詞口供、清代民国時期漢語国際学術研討会前論文集、査読無、pp. 135-148、2010

⑦落合守和、『自由潮』の言語について、日本中国語学会第60回大会予稿集、査読有pp. 23-27、2010

[学会発表] (計10件)

①落合守和、中国語史における漢児言語について、現代中国における言語政策と言語継承-少数言語について考える- (科研費基盤研究(B)「中国黒龍江省におけるモンゴル族コミュニティ言語保持政策や継承復興への取り組み」2012年度第2回日中ワークショップ報告書、2012年12月、首都大学東京南大沢キャンパス国際交流会館(東京都)

②落合守和、百年前の漢語御料(展観)、現代中国における言語政策と言語継承-少数言語について考える- (科研費基盤研究(B)中国黒龍江省におけるモンゴル族コミュニティ言語保持政策や継承復興への取り組み)

2012年度第2回日中ワークショップ報告書、2012年12月、首都大学東京南大沢キャンパス国際交流会館(東京都)

③落合守和、日本中国語学会第64回大会、『啓蒙画報』の言語について、2012年10月同志社大学京田辺キャンパス(京都府)

④落合守和、中国近世語学会2012年度第1回研究集会、『應用會話篇』の言語について、2012年6月関西大学(大阪府)

⑤落合守和、『春阿氏』の言語について、日本中国語学会第63回大会、2011年10月、松山大学

⑥落合守和、清代民国時期漢語国際学術研討会、清末民初白話報刊概観、2010年5月、鮮文大学校(韓国: 牙山)

⑦落合守和、清代民国時期漢語国際学術研討会、清代北京刑事档案所見の供詞口供、2010年5月、鮮文大学校(韓国: 牙山)

⑧落合守和、日本中国学会第60回大会、『自由潮』の言語について、2010年11月、神奈川大学

⑨落合守和、日本中国学会第62回大会、順天府档案に見える口供供詞の言語について、2010年10月、広島大学文学部

⑩中国近世語学会2010年度秋季大会、『清文指要』ができるまで、2010年12月、愛知大学東京事務所

[図書] (計0件)

[産業財産権]

○出願状況(計0件)

○取得状況(計0件)

[その他]

ホームページ等

<http://www.bcomp.metro-u.ac.jp/chubun/luohe//luoheindex.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

落合守和 (OCHIAI MORIKAZU)

首都大学東京・人文科学研究科・教授

研究者番号: 40117700

(2) 研究分担者

()

研究者番号:

(3) 連携研究者

()

研究者番号: